

様式 16 情勢報告（各月の動き毎月 25 日までに報告）
情勢報告（平成 25 年 7 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A 土佐くろしおニラ部会現地検討会



J A 土佐くろしおニラ部会の現地検討会が 6 月 21 日に開催され、15 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、定植後の株養成期間中の栽培管理のポイントと、昨年の長雨に多発した株腐細菌病や軟腐病対策について説明し、栽培管理の徹底を図りました。篤農家からは、定植後の頭上からの十分な灌水による活着の促進と活着後の適宜な灌水による株養成の促進について意見が出されました。

今後、9 月には収穫期間中の栽培管理について、12 月には厳寒期の栽培管理について現地検討会を開催する予定です。

J A 土佐くろしおオクラ目慣らし会



J A 土佐くろしおオクラ部会の目慣らし会が 6 月 24 日、25 日、26 日に 3 か所で開催され 34 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、「J A 土佐くろしお版オクラチェックシート」を農薬の適正使用の遵守と品質確保に活用して、安定生産につなげることを指導しました。参加者は、出荷場に持ち込むまでの生産者段階の注意事項を再確認することができました。

今後、品質の安定化に向けた生産ができること、そして市場事故発生時には迅速な対応ができるよう J A と共に指導する予定です

J A 津野山シシトウ部会目慣らし会



J A 津野山シシトウ部会の目慣らし会が 7 月 3 日に開催され、シシトウと甘長トウガラシの生産者 37 名が参加しました。

振興センターからは、整枝や摘心、灌水、追肥、病虫害防除について収穫期間中の栽培管理のポイントを説明し、管理の徹底を図りました。特に、甘長トウガラシでは、例年発生が多い尻腐れ果について適正な灌水管理や適期収穫による対策を指導しました。また部会員からは、自分の栽培ほ場の状況説明があり、栽培管理について意見交換をしました。

今後、現地検討会や現地巡回を通して、個々の栽培技術の向上に努めます。

J A 津野山シシトウ部会甘長トウガラシ現地検討会



J A 津野山シシトウ部会の甘長トウガラシ生産者を対象に、現地検討会が 7 月 10 日に梶原町と津野町の 2 ヶ所で開催され、21 名が参加しました。

振興センターからは、収穫期間中の栽培管理のポイントとして、整枝や摘心、適期収穫、病虫害防除などについて説明し、栽培管理の徹底を図りました。生産者は、天敵のスワルスキーカブリダニの定着状況を自ら確認し、側枝の整枝方法については意見を交わしました。

今後、勉強会や現地巡回を通して、個々の栽培技術の向上に努めます。

集落営農組織「高野西部組合（津野町）」設立



7月18日、津野町高野集落において24名の生産者が参加し、津野町で4番目の集落営農組織となる「高野西部組合」が設立されました。

町産業建設課とともに5月から、集落リーダーを中心に「集落営農勉強会」や集落住民への「意向調査」を進め、6月には「集落座談会」で規約等を具体的に検討してきました。

当日は、世話役の生産者から提案された規約や事業計画・出資金額等が承認され、役員も決まりました。

今後とも、農業振興センターでは同組織の運営等について関係機関と連携して支援を行いたいと考えています。

J A土佐くろしおミョウガ部会目慣らし会



7月上旬にJ A土佐くろしおミョウガ部会の目慣らし会が計9回開催され、生産者200名が参加しました。

振興センターからは、これまでのミョウガ生育調査データや、水やけ症の発生状況、農技センターの開発した日射比例かん水装置の稼働状況などについて情報提供を行いました。

J A土佐くろしおクジャクアスター研究会の勉強会と目慣らし会



J A土佐くろしおクジャクアスター研究会を対象に、6月26日に勉強会、7月4日に目慣らし会が開催され、それぞれ5名と8名の参加がありました。

勉強会では、振興センターから土づくり・土壌消毒・除塩の3つに焦点を当てて、それぞれの技術内容を説明しました。特に土づくりについては生産者の関心は高く、具体的なやり方などについて生産者同士で情報交換が行われました。